

「IBDを理解する日」制定記念イベント

2013年5月19日(日)東京ミッドタウンで「IBDを理解する日」制定記念イベントが開催されました。このイベントはアッヴィ合同会社が主催し、日本国内におけるIBDへの理解を広げるために記念日を登録することになりました。これは、欧州のIBD患者会が初めて世界会議を行なった1990年5月19日を記念し、「世界IBDの日」として、欧州クローン&潰瘍性大腸炎患者連合会(EFCCA:エフカ)が定めた日に足並みを揃えたものです。

最初に日本記念日協会の加藤清志代表からIBDネットワークの萩原理事長とアッヴィ社ゲーリーM. ワイナー社長への「IBDを理解する日」認定状の授与が行われました。その後大船中央病院上野文昭先生による「IBDミニ教室」が開催されました。続いてタレントの山田まりやさん、上野先生、萩原理事長、同じくIBDネットワークの中山副理事長によるトークショーが開催されました。

山田まりやさんは10年前に原因不明の嘔吐や発熱、貧血という症状に悩まされ、苦しんだ経験を話しました。症状が現れた時、2カ月間の舞台公演の最中だったこともあり「どうにもならなかった。もだえ苦しんだ」と振り返った。その後、医師からはクローン病の疑いありと診断されたものの、5年前から症状が出なくなったことから確定診断には至らなかったということです。しかし当時は「単なる不摂生と言われることもあり、苦しかった。うつのような症状にもなった」と振り返り、2012年末に念願の男児を出産したが「当時は出産なんてできないと思った。苦しんでいる人がいたらすぐに病院へ行って」と体験者しか語れない言葉で訴えられました。山田さんにより会場に来られた方にクローン病、潰瘍性大腸炎の苦しみが伝わったように感じました。

一方IBDネットワークの萩原理事長と中山副理事長は社会に知ってほしいこと、今一番訴えたいことを中心に発言しました。MCの町さんはガン患者の取材をされていたこともあってこのイベントでもポイントをおさえた発言をしてくださいました。

イベント終了後、会場でアッヴィ社ワイナー社長とIBDネットワークのメンバーでIBDグッズ(IBDのニーズを印刷した特製トイレトペーパー)の配布を行いました。会場に設置した「トイレする考える人」モニュメントは来場者の多くの方が写真撮影していました。山田さんが最初に書いて貼ったメッセージカードを多くの方が書いて「トイレする考える人」の台座に貼られていました。子供さんも通りすがりの人も楽しんでいました。

また会場にはテレビや新聞社の報道陣が多くつめかけていて、イベント終了4時間後にはYayooトップに掲載されました。

以上